

事案名	都城市の事案（宮崎県 新規事案）
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「旧軍毒ガス弾等全国調査フォローアップ調査について（報告）」〔A1〕 ・『21世紀へ伝える航空ストーリー 戦前戦後の飛行場・空港 総ざらえ』〔A2〕
資料内容概要	<p>終戦後に、都城市において軍医が液体入りの不審瓶を埋設している光景を目撃したとの証言情報がある。</p> <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民から得られた証言情報として、昭和20年の終戦後、旧軍の軍医が同住民の自宅の裏山付近において、7分程度まで液体が入った直径70～80cm程のガラス瓶を、下に石灰を敷き、約1.5～2m程の深さに埋設しているのを目撃した。何を埋めているのか質問するとその軍医は、毒ガスを埋めていると答えた、と記されている〔A1〕。 ・同住民は、自宅付近に旧軍の診療所や食料倉庫、都城飛行場があった。診療所の裏山に木が茂っており、その辺りに埋設したと思われると証言したと記されている〔A1〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦時中、都城市には、都城東海軍航空基地と都城西陸軍飛行場が存在していたと記されている〔A2〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民から得られた証言情報として、埋設された数年後に、埋設地点付近の木を切り、住宅が建てられたが、その際幹を伐採したしたのか、根まで掘り返したのかは不明である。その時は、異臭騒ぎ等は起こらなかった。現在は、住宅は移設され、不審瓶が埋設されたと思われる場所付近には塀が存在していると記されている〔A1〕。